

市の借金はどうなっているの？



残高は昨年度に比べ増加、返済額は減少

市では、道路や公共施設など将来にわたって利用される大規模な施設を整備するときには、国や銀行から長期間で返済する資金を借り入れており、これらは市の借金にあたりません。

市の借金残高は、防災行政無線整備事業のために4.5億円の借り入れを行ったことなどにより、昨年度末に比べて、1億円増加し、過去5年において最も膨らんでいます。

市には基金がどれくらいあるの？



自由に使うことができる基金は昨年度に比べ1億円減少

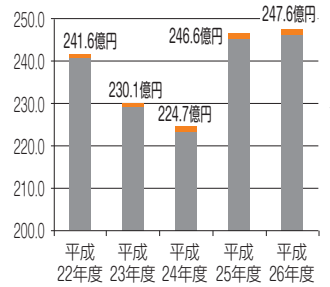
市では、万一のときの備えや特別な用途に使うことを目的に、17の基金などに積み立てをしています。

このうち、台所事情が苦しいときなどに自由に使うことができる基金などは、財政調整基金、減債基金の一部、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類で、市がもしものときに使うことができる預金にあたりません。

平成26年度末のこれら預金の残高は、合計で11.5億円となり、昨

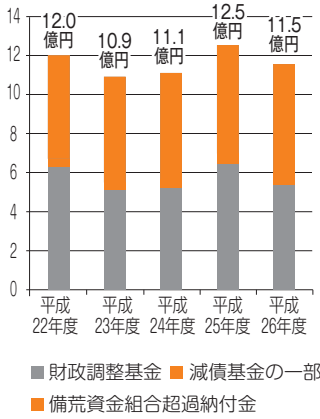
また、平成26年度の借金の返済額（公債費）は全会計で29億円に上り、市の支出の中で大きな割合を占めています。

借金残高の推移



■ 一般会計
■ 特別会計 (学校給食事業、簡易水道事業)
※ 公共下水道事業特別会計分は、平成26年度から公営企業会計へ移行したため除く。

基金残高の推移



度末の残高に比べて1億円減少しました。これは、厳しい台所事情の中、収入の不足分を補うために、財政調整基金を取り崩したためです。

これからの市の台所事情



平成27年度予算では6億円の財源不足

平成27年度の予算（一般会計）では、202.2億円の支出に対して、196.2億円の収入しか見込めず、6億円の収支不足が生じました。

この収支不足については、全額を基金の取り崩しで補填する予定で、今後、財政が好転せず、収支不足が解消されない場合には、平成27年度末の基金の残高は5.5億円まで減少してしまいます。

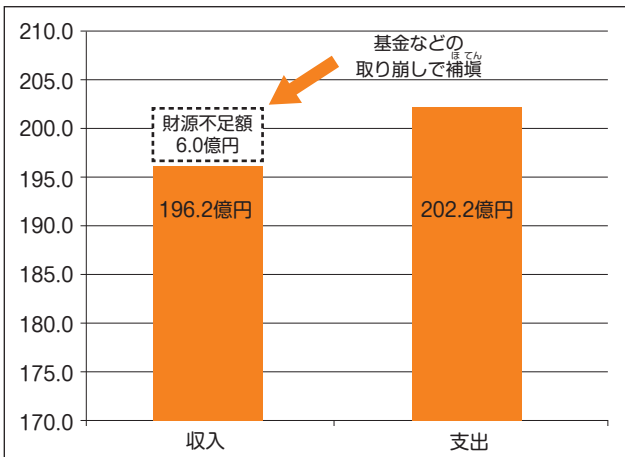
そのような事態を避けるため、平成27年度の財政運営にあたっては、

少しでも収支不足額を少なくし、基金を取り崩さなくて済むよう、適切に収入を確保することはもちろん、無駄な支出がないかチェックを重ねるなどの努力をしています。

今後についても、高齢者人口の増加により社会保障費の増加が見込まれることや、小・中学校や総合体育館など、老朽化した公共施設の整備に多くのお金を要することなどから、市の台所事情は引き続き厳しい状況が続きます。

また、市民の皆さんから納入していただく税金は、人口の減少が進んでいることから、今後大きく増やすことが難しい状況で、国から交付される地方交付税についても、国の財政状況によっては大きく減る場合があります。市を取り巻く環境はいっそう厳しさを増すことが予想されます。

そうした中であって、市民の皆さんが必要とするサービスを安定的に提供するため、サービスの効率性を常に検証し改善していくことはもちろん、時代の変化により不要となったサービスの見直しなどにも積極的に取り組んでいきます。



平成27年度予算の状況